

「復活の日」

Resurrection Day

～イプセン最後作「わたしたち死んだものが目覚めたら」による現代能～
A modern Noh play based on Ibsen's last play
When We Dead Awaken

作：イプセン
台本・演出：毛利 三彌
能作：津村 禮次郎

イプセン
現代劇
連続上演
第9作

津村 禮次郎(能楽師 観世流シテ方)

奥川 恒治(能楽師 観世流シテ方)

水野 ゆふ(Pカンパニー)

池田 勝(フリー)

笛 栗林 祐輔

小鼓 坂田 正博

大鼓 上野 義雄

地謡 鈴木 啓吾

古川 充

小島 英明

桑田 貴志

後見 杉澤 陽子

新井 麻衣子

2008.9.24(Wed.) 19:00開演 梅若能楽学院会館

入場料(全席自由) 前売り：5,000円 当日：5,500円 学生：2,000円

お問合せ：名取事務所 TEL:03-3428-8355

●スタッフ 美術 内山 勉 照明 竹井 崇 舞台監督 市川 兵衛 演出助手 中川 順子
制作 栗原 暢隆 プロデューサー 名取 敏行 製作 名取事務所

後援：ノルウェー王国大使館

名取事務所公演
Theatre Office Natori

C
M
Y
K

「復活の日」

Resurrection Day

イプセン
現代劇
連続上演
第9作

～イプセン最後作「わたしたち死んだものが目覚めたら」による現代能～ A modern Noh play based on Ibsen's last play *When We Dead Awaken*

世界的に有名な彫刻家ルーベックは、若い妻マイヤと久方ぶりに故郷にもどるが、どこか自らのあり方に不満を感じている。そこに、昔、彼の最高傑作とされる作品のモデルをつとめ、その後行方がわからなくなっていたイレーネに再会する。二人は、過去に縛られながらも、新たな生き方をもとめて、輝く日の出を迎えるために山に登る。下からは、熊撃ちのウルフハイムと連れ立ったマイヤの自由の歌が聞こえてくる。

伝統的な芸術の巨匠であるイプセン（ルーベック）が遭遇した世紀末の現代芸術との対決が、この作品のテーマであろう。ここで芸術は人生と対比される。イレーネは伝統を表わすが、新しい時代の中で自らを見失い、マイヤは伝統の束縛を絶って、自らの自由な人生に飛び込むけれども、その不安定さを如何ともしがたい。この二人の間にあって、揺れ動きながら、しかし、あくまで伝統の意味を重視するルーベックは、イレーネと再び芸術の高揚を経験したいと思う。こういう葛藤と無縁なのが、熊撃ちウルフハイムであり、マイヤの求める現代性である。

伝統は能楽師に、現代性は現代俳優に担われる。だが、芸術の基盤はあくまで伝統になければならないから、劇も上演も、原則的に能型式にのっとる。この伝統と現代のコラボレーションによって、イッセン最後作の核心的テーマは鮮明に浮かび出るに違いない。



津村 禮次郎
能樂師 観世流シテ方
緑泉会会主



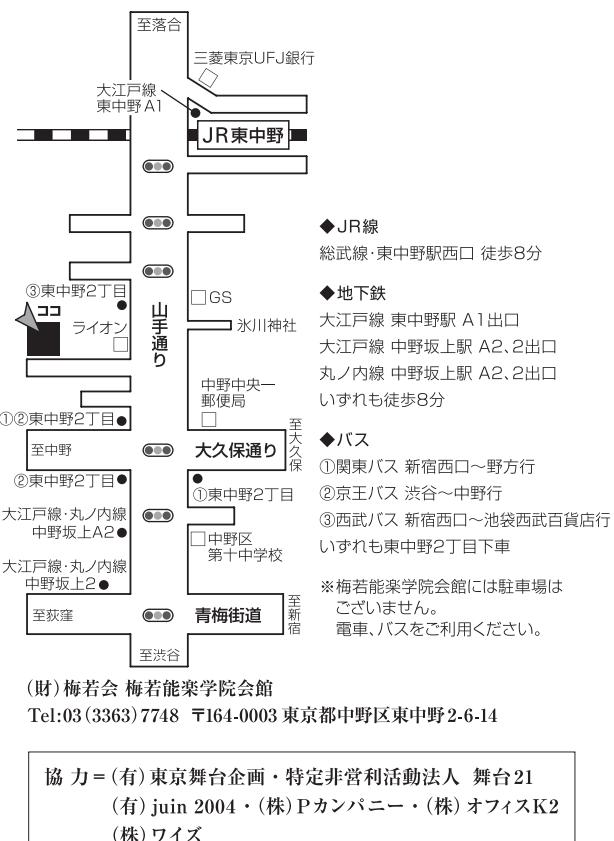
水野 ゆふ
Pカンパニー



奥川 恒治
能楽師 觀世流シテ方



池田 勝
フリー



イプセン戯曲選集

現代劇全作品

毛利三彌訳 19世紀ヨーロッパが生んだ最大の劇詩人イプセンの「人形の家」以降の全作品を網羅する、ノルウェー語原典からの毛利訳。「人形の家」「ゆうれい」「人民の敵」「野がも」「ロスメルスホルム」「海の夫人」「ヘッダ・ガブラー」「棟梁ソルネス」「小さなエイヨルフ」「ヨーン・ガブリエル・ボルクマン」「私たち死んだものが目覚めたら」など、イプセン演劇の全体像を知ることのできる決定版。

A5版 定価：本体価格 6000円+税

北歐演劇論 ホルベア、イプセン ストリンゴベリ、そして現代

毛利三彌著　対話形式による初の北欧演劇入門書。18世紀の喜劇作家ホルベア、19世紀演劇の巨匠イプセン、20世紀演劇のさきがけストリンドベリを初めとし、現代作家を社会的背景や劇場史とともに紹介する。

B6版 定価：本体価格 2200円+税

東海大学出版会

〒257-0003 神奈川県秦野市南矢名3-10-35 東海大学同窓会館内
Tel.0463-79-3941 Fax.0463-69-5087
<http://www.press.tokai.ac.jp/> ウェブPR誌「WebTOKAI」

*名取事務所では会場の公演を手伝ってくださる方を募集しております。詳細は名取事務所まで